



一般財団法人 桃花台センター設立30周年記念号

桃花台ニュータウンと 共に歩んだ30年



桃花台センターは、令和元年7月で設立30周年を迎えました。30年という長きにわたり桃花台を見つめ続け、111号となる今号の「飛行船」は「桃花台ニュータウンと共に歩んだ30年」と題し、特別記念号を発行しました。これからも皆さんと歩み続ける桃花台センターをよろしくお願いいたします。

桃花台センターの活動

平成元(1989)年7月に愛知県と小牧市を中心に桃花台ニュータウンの豊かな住環境形成を目的として設立されました。平成25(2013)年に財団法人桃花台センターから、一般財団法人に移行しました。

道路や公園の維持管理、運動施設の管理、駐車場の運営などの他にも里山保全、樹勢回復事業など環境保全にも力を注ぎました。併せて、桃花台域内で居住環境整備活動等をする団体に活動資金の助成を行っています。そして、情報誌「飛行船」の発行をはじめ、みどりの教室や健康講座、花と樹木のなんでも相談など、まちづくり啓発事業にも積極的に取り組んでいます。





桃花台区長会
会長 小柳 松夫



小牧市長
山下 史守朗



一般財団法人桃花台センター
理事長 内田 光一

桃花台センターは、平成元年7月に桃花台ニュータウンを中心とした地域において、豊かで潤いのある居住環境の形成に資する事業を行い、住民の福祉の増進に寄与することを目的に設立され、今年で30周年を迎えました。

これもひとえに、地域の皆様 の多大なるご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。設立以降、当センターが主催する「絵画コンクール」を始め、「みどりの教室」、「健康講座」などの事業も好評を博する事業に育ってまいりました。また、桃花台の人口1万人突破を記念して、発行した「飛行船」も111号を数えました。一方、公園や緑道の維持管理、駐車場の

管理運営、里山の保全活動などの事業を実施し、居住環境や利便性の向上にも努めているところであります。

当センターといたしましては、社会情勢の変化を捉え、より快適な居住環境の形成に努めてまいります。今後とも皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般財団法人桃花台センターが設立から30周年を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。

「桃花台ニュータウン」は昭和55年の入居開始以来、住民の皆様のご支援により、調和のとれた魅力ある街として発展してまいりました。

しかしながら、人口は平成17年以降減少しています。また、同世代の住民が同時期に集中して入居したことから、近年高齢化が急速に進んでおり、本市としましては、人口減少とあわせて重要な課題であると認識しています。

こうした状況を踏まえて市では、本年4月に桃花台ニュータウンを含む東部地区のまちづくり専門部署として、東部まちづくり推進室を新設し、これからもゆとりと潤いのある良好な住宅地として、住民の皆様が愛着を持って住み続けることができるよう取り組みを始めたところでもあります。

最後に、この記念すべき年を新たな出発点として、貴センター及び桃花台ニュータウンにお住まいの皆様様の益々の発展とご健勝・ご活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

一般財団法人桃花台センターが設立30周年を迎えられたことに心よりお喜び申し上げます。

昭和55年、わたくしがこの桃花台に居を移して以来、桃花台に住む人たちが住んで良かったと思えるようなまちにしようと、皆さまの力をお借りしながら「桃花台まつり」をはじめ、さまざまな「まちづくり」に取り組んでまいりました。合わせて、当

初よりこの桃花台という地を分けてくださった周辺の人たちに感謝の気持ちを言葉にしていまいりました。

以来、30年余の時間が過ぎ、かつては若い力に溢れ、活気みなぎる町・桃花台にも高齢の波が押し寄せておりますが、成熟したまちとして再スタートを切り、美しい町づくり、そして何よりも住民の皆さまが「我が町、故郷」と高い意識をもてるような住環境、絆を深めていくことが後世につながる力だと信じております。

これからも桃花台センターはじめ、区長会、地域の皆さま一丸となり、我がまち・桃花台のさらなる発展に期待を寄せております。

桃花台の歩み

- 昭和46年(1971) 桃花台新住宅市街地開発事業都市計画決定
- 昭和47年(1972) 桃花台ニュータウン開発促進連絡協議会設置
小牧市市民会館公民館完成
- 昭和48年(1973) 用地造成起工式
小牧市市民プール完成
- 昭和51年(1976) 桃ヶ丘小学校開校
南スポーツセンター完成
- 昭和54年(1979) 宅地分譲開始
- 昭和55年(1980) 入居開始
第1回小牧市民まつり開催
- 昭和56年(1981) 古雅保育園開園
- 共同店舗「エステ」開店
- 昭和57年(1982) 桃陵中学校開校
- 私立あおぞら幼稚園開園
- 消防署東支署開設
- 昭和60年(1985) 桃ヶ丘会館開館
- 昭和61年(1986) 篠岡会館開館
- 昭和62年(1987) 消防署東支署新庁舎完成
第1回桃花台まつり開催
市民病院オープン
- 昭和63年(1988) 光ヶ丘小学校開校



桃ヶ丘小学校

愛 知県の情報や知人から桃花台は将来、有望な住宅地だと聞き、申し込みをした。それが桃花台に住むきっかけでした。当然、抽選で当たった後に自分が住む土地を見に来て、気に入ったのは、星がきれいに見えたこととゴルフ練習場が近くにあったこと。そして、驚いたのは午後10時を過ぎると信号が点滅になったこと。

住み始めた頃はまだ、建設ラッシュで、毎日、工事の音が聞こえ、エネルギーを感じたと同時にいつも子どもの声が聞こえていました。当時、飲食店等の店が多かったことも魅力の一つです。

令和15年には、桃花台は現在より4000人余少ない18000人程度の人口になると推測されることを耳にしているが区長会の団結もある、まちづくりへの



荻谷敏彦さん(80)

人材・アクティブシニアもいっぱいいる、そんな桃花台は、輪が広がっていけば、まだまだ元気になれるはずだと思っています。桃花台にずっと住み続けたい、故郷であり自分の都だから。これからも桃花台がよくなることに尽力したい。



桃花台に住もう!と思ったきっかけ、住み始めてから。皆が新天地だったこの地でまちづくりに意欲を燃やし、頑張ってきました。そして、今。熟成したまちをどう思い、感じているのか、皆さんに聞いてきました。

外国の人が多くといわれる桃花台。桃ヶ丘小学校校区地域協議会副会長の立場から考えれば、多様性を認め合い、お互いにウイン・ウインの関係を築き、多言語を勉強

勤 務地に近いということで選んだ桃花台。仕事柄、多忙をきわめ、地域など全く意識することなく生活してきましたが、突然のごとく区長に任命され、戸惑いを感じつつも地域を見つめることになりました。地域のサロン(高齢者の集い)に出掛け、話が盛り上がり、どちらにお住まいかと聞いたら自宅の斜め前の家だったという笑い話や町内でお亡くなりになった方がいたことも半年ほど知らなかったことなどエピソードは数知れず。

**宮崎清文さん(82)
芳江さん(82)**



現 在は、城山に住んでいます

が、以前は古雅に住んでいました。たまたま町内会長をすることになり、県営住宅という場所柄、バラバラの生活を送っていた皆とコミュニケーションを取ろうと、情報誌を作って配布したり、餅つき、運動会などを企画したり、大変だったけれど、楽しい時間を過ごし、子どもたちの思い出作り、故郷づくりに努力しました。

平成4年、城山に移ってから区長として精力的に活動してきました。芳江さんが初めて民生委員を担当した平成7年頃には地域

には若い人が多く、高齢者はほとんどいませんでした。

最近では、2人でボランティアとしてサロン(高齢者の集い)の運営に携わり、地域のコミュニケーションを作ることに力を注いでいます。

夫婦での不安は、運転免許証を返納した後の生活のことと、元気な後継者が育ってくれることかな。なるようにしかならないけれど、桃花台がずっと魅力あるまちでいてほしいと思っています。



長谷川正義さん(75)

したり、文化を学んだりして、世界を縮小したような活気あるまちになることも一つの選択肢だと思っています。

桃花台は皆が新しい住人なので、フラットであり良い点はたくさんあります。町内など小さなところの絆力をつけて(特に男性)、コミュニケーションを広げていくことが大切でその一翼を担っていきたく感じています。

- 私立ひまわり幼稚園開園
- タウン誌「飛行船」VOL.1発行
- 保健センターオープン
- 平成元年(1989) 財団法人桃花台センター設立
- 東部市民センター完成
- 第1回平成夏まつり開催
- 平成2年(1990) 大城小学校開校
- 光ヶ丘中学校開校
- 篠岡児童館開館
- 平成3年(1991) 新交通システム
- 桃花台線「ピーチライナー」開業
- 大城保育園開園
- 桃花台タウンセンター「ピアーレ」オープン
- 小牧・桃花台アーバンフェア'91開催
- 小牧市温水プールオープン
- 平成4年(1992) 私立旭ヶ丘第二幼稚園開園
- 桃花台中央公園開園
- 平成5年(1993) 城山会館開館
- 平成6年(1994) 篠岡保育園開園
- 平成7年(1995) 再開発ビル「ラピオ」オープン
- 平成11年(1999) 桃花台ニュータウン事業完了
- 平成12年(2000) ピエスタオープン
- 平成13年(2001) パークアリーナ小牧オープン
- 平成18年(2006) ピーチライナー運行終了
- 平成21年(2009) 大城児童館開館



光ヶ丘中学校

昭和56年、桃花台に引っ越してきて「桃花台をどんな街にしたいか」というシンポジウムに出席したことをきっかけにまちづくりに興味を持ち「桃花台を子どもたちの故郷にしよう」と、子ども会を作る活動や桃ヶ丘小学校開校5周年記念で秋祭りのお神輿を作るイベントに参加してきました。地域の皆が若く、地域を良くしようという意気込みや熱意を感じました。

車が必要になり、40歳を過ぎて運転免許を取ったり、市子ども連合会の役員、保健センターの食育ボランティアなどに声を掛けていただいたり…。すべてが桃花台に住んだことで成し得たことです。

桃花台は5万人都市と言われました

が、高層住宅への不人気から一戸建てが増え、予想人口が減りました。しかし、緑・公園は各所に造られ、道路は整備され、子どもたちにとって快適な環境だった時もありました。ピーチライナーの廃線など計画通りとは言えないけれども住めば都です。いろいろな違いはあるけれど住めばよいところですよ。



栗山暢子さん(77)

ピエスタがオープンした平成12年から営業を続ける「いなちゃん」のオーナー。20年間、桃花台に住む人たちの憩いの場、集いの場として親しまれてきました。好景気そして不景気と時に応じ変化してきた桃花台を変わることなく見届けてきました。

メニューは変わらず、お好み焼きに焼きそば、たこ焼きに串焼き、鉄板料理、刺身などの今日のおすすめ看板メニューで、料金も家族的。疲れて夕食作りが面倒な時は気軽に寄ってもらい、楽しい時間を過ごしてもらえたいですね。高齢化が進む桃花台と同じく息子に代を譲ろうかと悩む今、店を続けてこられたのは桃花台の皆さんのおかげです、と20年を振り返り心より感謝しています。



稲垣洋司さん(70)

間に1本で、吹きさらしの小牧駅で凍えそうになったことは忘れられないエピソードの一つです。

桃花台には同年代の人が多く、良い町を作ろうという思いが皆にあり、皆が新しい住人だったのでいろいろなことができました。ソフトボール大会をして汗を流したり、友人となった家で子どもと一緒に飲み会を開いたり楽しい思い出はいっぱいです。

現在、どこの地域でも高齢者が増えてきましたが、イベントや会議に出る顔ぶれがいつも同じになってきているように感じます。趣味や付き合いを通じて外に出て、たくさんのコミュニティが生まれるとさらに活気も出てくると思います。



荒木田清さん(70)

し、周辺には商業施設もあり生活環境も充実していました。多忙を極め、首都圏への単身赴任などで地域に関わる機会もありませんでした。60歳を過ぎた頃から、地域

少子高齢化の大波を受ける桃花台にとってこれからの15年が大切な時で、どのように街が良い方向に変われるかが重要な問題です。区の自治体のルール作りや空き住宅の有効活用など問題はたくさんありますが、できることから具体的に形にしてクリアにしていくことで新しい街づくりができるのではと思っています。

当時、勤務地・小牧の大きなプロジェクトリーダーを務めていたことから、桃花台に住むことを選び、以来、30年余が経過。子育てに最高の環境であった



山田正伸さん(72)

愛知県の分譲だったことがきっかけで桃花台で住もうと抽選に申し込みましたが、小牧・桃花台がどこにあるかも知りませんでした。桃花台第1期入居者の一人として、昭和55年8月に引越してきました。周囲にはスーパーも何もなく、公共交通は小牧駅行のバスのみでした。会社の忘年会で遅くなり、小牧駅まで着いたものの桃花台へのバスが1時

2020年3月14日
桃花台元気マルシェ
開催決定!

桃花台センター設立30周年を記念して、3月14日(土)に「桃花台元気マルシェ」を開催いたします。地域の皆さんの出店や飲食ブース、ステージイベントなど皆さんを元気にするマルシェに乞うご期待です! 詳しくは、飛行船VOL.112(1月1日発行)をご覧ください。

